

のじぎく保存会 (1962): 県花ノジギク, 同会
 山陽ニュース (1969): 県花ノジギクハイキング, 山陽電車
 下斗米直昌 (1935): 菊の生態と細胞遺伝, 養賢堂
 工 正勝 (1960): 姫路市大塩地域のノジギクの変異, のじぎく保存会
 —— (1964~5): 郷土の花ノジギク, 武陽通信, 22~23号
 —— (1965): 菊, 山陽ニュース, 11月号

—— (1966) 県花ノジギク, 紅谷進二, 兵庫の自然, 8~9
 —— (1969): アカバナノジギク, 武陽通信, 38号, 21~22
 上田菊童 (1968): 菊を作って50年, 京都園芸, 59輯, 55~60
 山鳥吉五郎 (1935): 野地菊に就て, 博物学雑誌, 33巻, 14
 —— (1943): 野地菊, 随筆の植物, 158~162

森・三木・紅谷生物研究奨励金の中間報告

兵庫県生物学会の初代会長である森為三博士生物研究奨励金が誕生してから本年度で丁度10年になりますので、その経過と奨励金授与の状況を報告して、そのご厚志に感謝の意を表わし、今後とも後に続く方々を期待したいと思ひます。

森会長は昭和22年本会発足以来、昭和37年7月に逝去されるまで、常に会員とともに歩まれ、身をもって垂範指導をされました。そして森会長のご逝去後、奥様から森会長の遺志として、ご香料の中から本会へ10万円を寄贈され、用途を本会に一任されましたので、理事会で協議の結果、総会にかけてその利息を「森為三博士生物研究奨励金とすることになり、毎年1人ずつに研究奨励金を贈呈することになりましたが、翌昭和38年にさらに5万円の追加寄贈をいただきましたので、翌39年からは受給者が毎年2名ずつとなりました。

また、昭和41年には本会会員の三木順一医学博士から生物研究奨励基金として10万円の寄贈を受け、森・三木生物研究奨励金と呼ぶことになり、翌42年には紅谷進二会長から10万円の寄付をいただき、森・三木・紅谷生物研究奨励金と呼ぶことになり、昭和43年度からは3名ずつ贈呈することになりました。

生物研究奨励金贈呈者の推薦について

ご承知のように毎年1月頃の理事会で研究奨励金贈呈者を詮議決定しておりますので、会員のご推薦方をお願いいたします。被推薦者の略歴、研究行績等をお書きそえのうえ、各支部の理事または会長(副会長)あてにご推薦くださるようお願いいたします。ただし、推薦者、被推薦者とも本会会員に限られています。

森・三木・紅谷生物研究奨励金贈呈者一覧

回数	年度	氏名	研究内容
1	38	西村 登	水生昆虫の生態的研究
2	39	稲田 又男	シダ植物の分類生態的研究
		猪股 涼一	ハバチ類の生態的研究
3	40	藤本 義昭	イネ科植物の分類学的研究
		三木 順一	スミレ属植物の研究
4	41	金沢 龍	海藻の研究と生物教育
		前田米太郎	ショウジョウバエの研究
5	42	近藤昭一郎	植物の核型研究
		富川 哲夫	溜池のプランクトンの生態的研究
6	43	杉田 隆三	植物の生態的研究
		谷口 博	理科(生物)教育
		細見 彬文	動物の生態的研究
7	44	岡村 はた	植物の区分キメラの研究
		近藤 浩文	理科(生物)教育
		森本 義信	地下水動物の研究
8	45	今津 達夫	淡水植物プランクトンの研究
		建部 恵潤	郷土の植物研究
		中村 勝	動物の生態研究・理科教育
9	46	安房 明	理科(生物)教育
		岩村 巖	日本産蝶類の研究
9	46	内海 功一	船越山の植物研究
10	47	家永 善文	藻類の研究
		高橋 匡	昆虫類の研究・理科教育
		橋本 光政	植物の生態的研究
		宮本 忠之	鳥類の研究